



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08117548 A**

(43) Date of publication of application: 14 . 05 . 96

(51) Int. Cl.

B01D 53/34
B01D 53/77
B01D 53/56
B01D 53/77
B01D 53/62
F01N 3/08

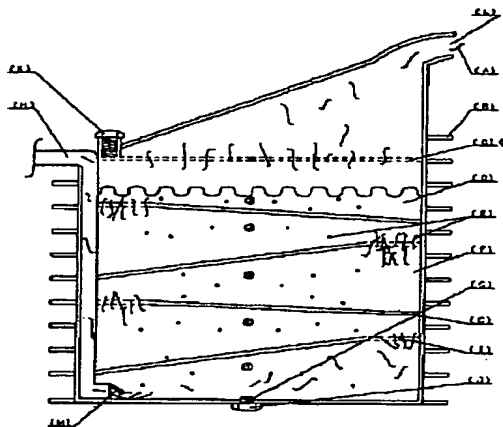
(21) Application number: **06291912**(71) Applicant: **KURIHARA YASUHISA**(22) Date of filing: **18 . 10 . 94**(72) Inventor: **KURIHARA YASUHISA****(54) EXHAUST GAS PURIFYING APPARATUS**

(57) Abstract:

PURPOSE: To purify exhaust gas by passing the exhaust gas through the perforated plates of oil rooms having oil housed therein of respective stages to dissolve the same in oil.

CONSTITUTION: An air cooling plate (B) is attached to an oil room (F) made of metal and exhaust perforated plates (C) are provided in the oil room (F) at every stages and oil (D) is introduced into the oil room (F). The exhaust gas (E) discharged from a muffler (H) passes through the exhaust perforated plates (C) of respective stages in the oil room (F) to reach an exhaust port (L).

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-117548

(43)公開日 平成8年(1996)5月14日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
B 0 1 D 53/34	Z A B			
53/77	Z A B			
53/56				

B 0 1 D 53/ 34 Z A B D
1 3 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平6-291912

(22)出願日 平成6年(1994)10月18日

(71)出願人 592119579

栗原 泰久

長野県上田市大字古里830-13

(72)発明者 栗原 泰久

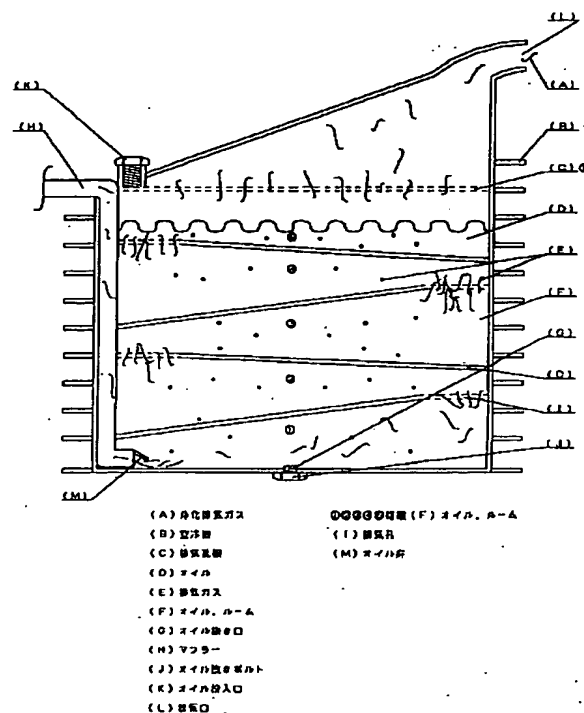
長野県上田市大字古里830-13

(54)【発明の名称】 排気ガス浄化装置

(57)【要約】

【目的】 排気ガスを、オイルが入った格段オイルルームの排気孔板より通過させる事により、オイルの中に溶け込ませ排気ガスを浄化させる装置である。

【構成】 金属製の(F)オイルルームに(B)空冷板を取り付け(F)オイルルーム内に(C)排気孔板を格段ごとに取り付け(D)オイルを(F)オイルルームに入れる。(H)マフラーより出た(E)排気ガスが、(F)オイルルーム内の(C)排気孔板格段より通過させ(L)排気口に至る。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (H) マフラーより出た排気ガスを (B) 空冷板の付いた (F) オイルルームに (D) オイルを入れた中を格段の (C) 排気孔板より通過させ (L) 排気口より (A) 浄化排気ガスを出す。

【発明の詳細な説明】

この発明は、排気ガスを浄化させる為の装置である。現在、地球の温暖化が著しく進み、人、動植物が住みにくい環境に成りつつある。中でも工場や自動車から出る排気ガスが著しく空気を汚している。私たち動植物は、ある一定以上のきれいな空気がなければ、生きていけない事は承知の通りである。今、私たちは一日も速く排気ガス対策を考えなければならない時に来ている。現在の排気ガス処理方法はどうか、私の目で見たところ 30～40 年前となんら変わりのない事に気がつくと思う。工場は煙突から黒煙を出し、車は排気ガスをまき散らし私たちの生活を脅かしている。特に、ディーゼル車等はひどいものである。あの爆煙の様な煙を町や野山にまき散らし、木立が枯れ鳥や昆虫などが少なくなり、やがては私たちの生命までも脅かしている現在である。本発明は、現在の排気ガス環境を良くする事に対し発明された物件である。マフラー (H) より出た排気ガス

(E) を、空冷板 (B) の付いたオイルルーム (F) にオイル (D) を入れた中を、①～⑤の順番に通過させる。この時に空冷板 (B) によりオイル (D) は一定の温度を保たせ、排気ガスの熱による温度の上昇はない。

(オイルの温度を一定に保たせるなら水冷でも良い) 一定な温度のオイルの中を排気ガスが①～⑤までのオイルルーム内の排気孔板 (C) より通過させる。通過過程において排気ガス (二酸化炭素、二酸化窒素等) がオイルに溶け込み排気ガスは浄化される。車が走る時間と距離が進むにつれてオイルは汚れていく、特にディーゼル車の場合は汚れがひどくなる。この様にオイルが汚れるという事は、二酸化炭素、二酸化窒素等の有害ガスがオイルに溶け込んでいいると考えられる。排気ガスを浄化させる方法としては、他にも色々あると思われるが私の考*

* えは、排気ガスとオイルはもとは同じ石油系であると言う事である。油で汚れた器や手などの汚れをきれいに落とすには、シンナーやベンジン石油等が効果適である。この様に元が同じ原料から出来ている物質同士は良く解け合うという事が考えられる。私が実験した第一の結果は、まず白色の障子紙を水で濡らしたものと、オイルで濡らしたものの用意し五分間ずつディーゼル車の排気ガスに近づけておくと、オイルで濡らした紙の方が排気ガスで黒く汚れ出す。この様にオイル自身の粘着性がカーボン等を付着させた結果だと思う。又、第二の実験では 20 リットルの石油ポリタンクにオイルを 10 リットル入れてディーゼルエンジンの排気ガスをビニール性のホースで取り入れポリタンクの底の部分より噴射させた。この結果、ポリタンクの上部の出口より出た排気ガスは、目で見た限りでは通常の黒煙よりはるかに浄化されている事が分かる。この実験では、オイルルームは一槽であるから二槽、三槽とオイルルームを増やしその中を排気ガスが通過する事で、かなりの浄化作用が期待出来るはずである。この実験により、30 分間排気ガスを噴射させたオイルは新しいオイルの色と比べるとオイルに墨汁を混ぜたような色に変化している。この様にオイルは排気ガスを付着させやすい液体である事が考えられる。以上の事が本発明の内容である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の側面図である。

【図 2】 本発明の正面図である。

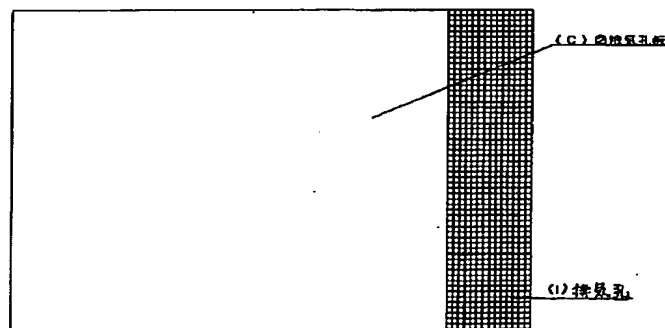
【図 3】 排気孔板 (C)、②の平面図である。

【図 4】 排気孔板 (C)、①の平面図である。

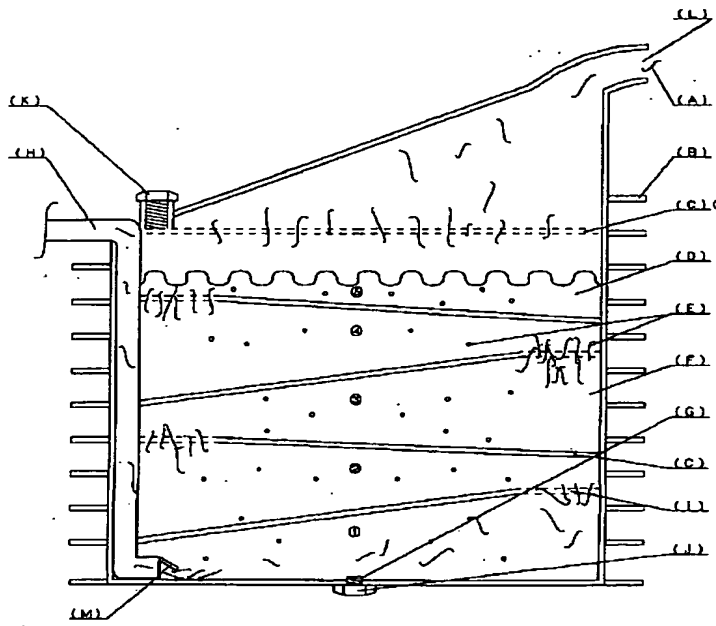
【符号の説明】

- | | |
|------------|--------------|
| (A) 浄化排気ガス | (G) オイル抜き口 |
| (M) オイル弁 | |
| (B) 空冷板 | (H) マフラー |
| (C) 排気孔板 | (I) 排気孔 |
| (D) オイル | (J) オイル抜きボルト |
| (E) 排気ガス | (K) オイル投入口 |
| (F) オイルルーム | (L) 排気口 |

【図 3】

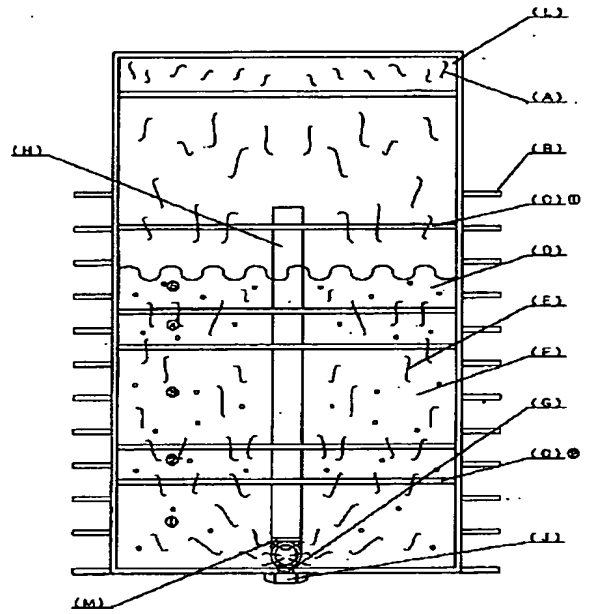


【図1】



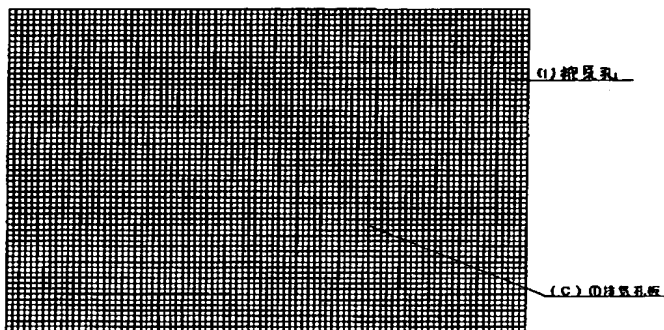
- (A) 溶化ガス
(B) 空冷板
(C) 排気孔
(D) オイル
(E) 排気ガス
(F) オイル、ルーム
(G) オイル抜き口
(H) マフラー
(J) オイル抜きボルト
(K) オイル投入口
(L) 排気口
- ①②③④⑤ 排気 (F) オイル、ルーム
(I) 排気孔
(M) オイル弁

【図2】



- (A) 溶化ガス
(B) 空冷板
(C) 排気孔
(D) オイル
(E) 排気ガス
(F) オイル、ルーム
(G) オイル抜き口
(H) マフラー
(J) オイル抜きボルト
(L) 排気口
- ①②③④⑤ 排気 (F) オイル、ルーム
(M) オイル弁

【図4】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁶

B 0 1 D 53/77

53/62

F 0 1 N 3/08

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A

B 0 1 D 53/34

1 3 5 Z